

## 資 料

### 成人・老年期がん患者のがん体験の意味づけに関する文献レビュー

A literature review on young to older adult cancer patients' meaning-making to their experience

竹山 広美<sup>1)</sup>, 鈴木 千絵子<sup>2)</sup>

Hiromi Takeyama<sup>1)</sup>, Chieko Suzuki<sup>2)</sup>

#### 要 旨

本研究の目的は、成人・老年期がん患者のがん体験の意味づけに関する文献からがん体験の意味づけの影響要因を明らかにし、がん体験を意味づける看護支援の示唆を得ることである。2022年8月に医学中央雑誌 Web 版, CiNii Research などのデータベースで、意味づけ, がん患者, 体験をキーワードに検索とハンドサーチングした 20 件をレビューの対象とし、分析した。結果、患者のがん体験の意味づけの影響要因には【現状認識・受けとめ】【身体・心理状態】【周囲の存在・関係性・支援】などがあつた。患者が適切な現状認識ができるようにすることや、社会的背景も理解して支援することの重要性が示唆された。

キーワード：意味づけ, がん体験, 成人・老年期がん患者

Key words : meaning-making, cancer experience, young to older adult cancer patients

- 
- 1) 広島国際大学看護学部 / 姫路大学大学院看護学研究科博士後期課程 (Faculty of Nursing, Hiroshima International University/ Graduate School of Nursing Science Himeji University Doctoral Course)
  - 2) 姫路大学大学院看護学研究科 (Graduate School of Nursing Science Himeji University)

## I. はじめに

がんに対する薬物療法も分子標的薬、免疫療法など様々な治療により、進行がん患者の生存期間は延長され、がんとともに生きる患者は増加している。しかし、がん患者は、がん罹患し診断されたことにより身体的、心理社会的、スピリチュアル、実存的な変化に直面している (Lee, 2008)。Park (2010) は、潜在的なストレス状況が、その人の信念や目標といった包括的意味と出来事の意味の評価の間に矛盾や不一致が生じると適応できず苦痛となり、その苦痛を解消するために意味づけるとしている。また熊倉ら (2020) の概念分析にて、意味づけは強いストレスを感じる出来事を把握し、その出来事を解釈・評価して自分のものとして構成するとともにその出来事に対処することであり、その結果として自身の生き方を見いだすことと定義している。がんサバイバーの縦断的研究では、がん体験を意味づけることがストレスへのより良い適応に関連していたことが示唆され (Park, et al., 2008)、がん患者ががん体験を意味づけたことでレジリエンスを高めていたことが報告されている (Rosenberg, et al., 2014)。がん患者が自分の体験を意味づけることができれば、がんを前向きに捉え、治療や生活の意思決定に貢献できると考える。

がん体験を意味づける介入研究には MMI (meaning-making interventions : Lee, et al., 2006) があり、その他、ライフレビュー (田村ら, 1997) やディグニティセラピー (Bluck, et al., 2022) を用いて実施している研究もあるが、がん患者のがん体験を意味づける看護支援について具体化したものではなかった。がん患者ががん体験を意味づける促進や阻害となる影響要因を明らかにすることで、がん体験を意味づける看護支援に繋がると考える。

本研究の目的は、成人・老年期にあるがん患

者のがん体験の意味づけに関する文献からがん体験の意味づけの影響要因を明らかにし、がん体験を意味づける看護支援の示唆を得ることである。本研究での「意味づけ」はストレスフルな出来事に適応していくための主体的な内的取り組みであり、患者の信念や目標なども影響していることとする。

## II. 研究方法

### 1. 対象となる文献の選定

がん体験の意味づけに関する論文は、医学中央雑誌 Web 版, CiNii Research, EBSCOhost (CINAHL Plus, MEDLINE, APA PsycArticles, APA PsycInfo) をデータベースで日本語か英語の文献、会議録を除き、2022年8月までの論文を対象に「意味づけ」「がん患者」「語り/TH or 体験/AL」, 「meaning making」「cancer patients」「experience」をキーワードに検索した。結果、医学中央雑誌 Web 版 28 件, CiNii Research 20 件, CINAHL Plus 33 件, MEDLINE 30 件, APA PsycArticles 1 件, APA PsycInfo 23 件が検索された。

選定基準を成人・老年期にあるがん患者の①がん体験を意味づける方法や対処, ②がん体験の意味づけやがん罹患してからの苦難な体験の理由や目的, 信念や価値観などが含まれるがん体験の影響要因に関する記述があることとした。除外基準を①対象者が家族や看護師, がん以外の疾患の患者も含まれている等でがん患者に限定されていない, ②がん患者によるがん体験やがん体験の意味づけの影響要因ではない, ③文献研究, 学位論文とした。選定基準, 除外基準から英文献7件, 和文献7件が選択された。さらにハンドサーチにて重要な6件を追加し, 最終的に20件の論文をレビューの対象とした (図1)。

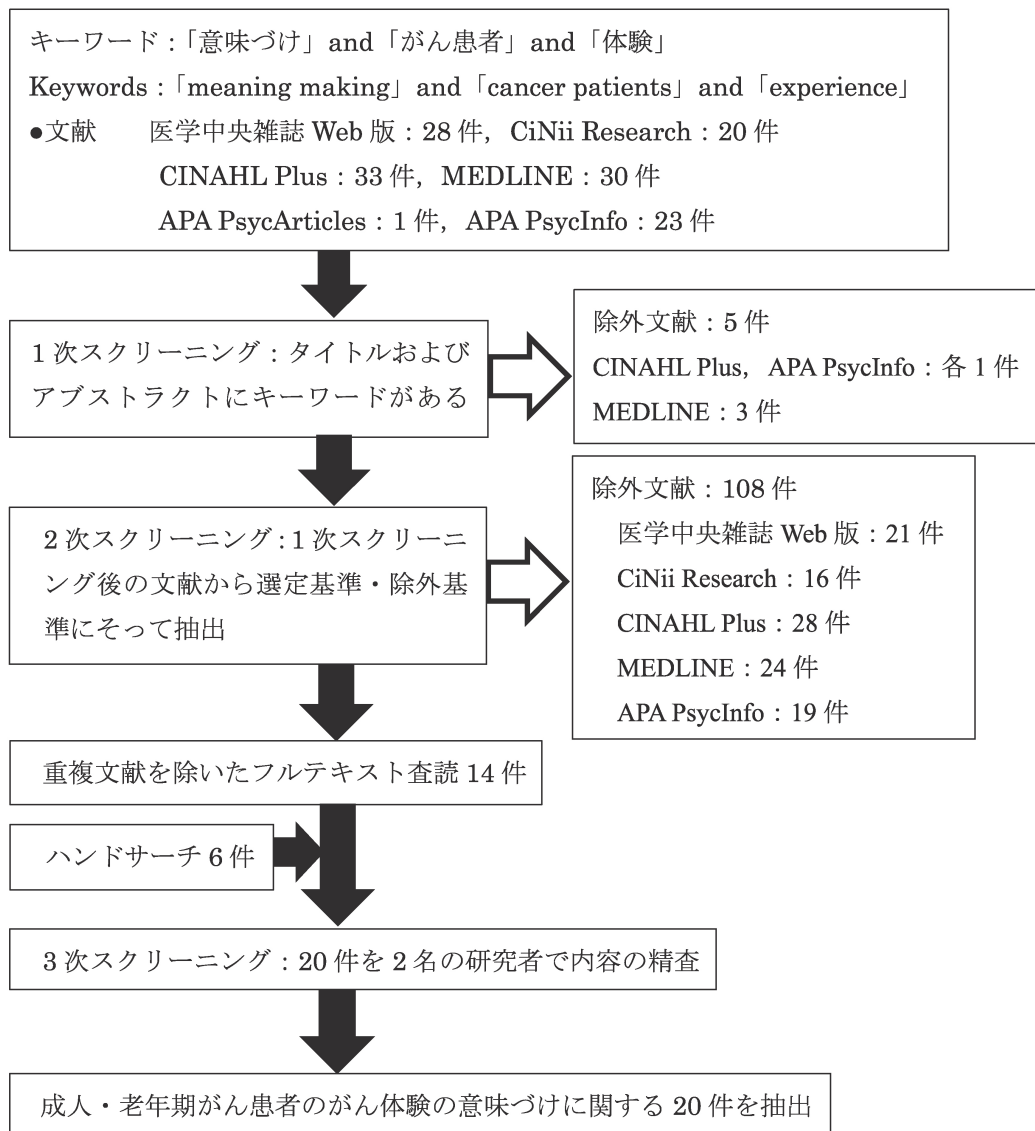


図 1. 成人・老年期がん患者のがん体験の意味づけに関する文献選定フローチャート

## 2. 分析方法

対象文献を発行年，筆頭著者，タイトル，国・地域，がん体験についての項目でまとめた。データ分析は，対象文献の結果からがん患者のがん体験を意味づける影響要因に関する内容を抽出し，前後の文脈から意味を損なわないように意味内容の類似性に従って分類した。また，分析の信頼性・妥当性を高めるためにがん看護の臨床・研究経験のあるスーパーバイザーによる

指導，助言を受けながら行った。

## III. 結果

### 1. 成人・老年期がん患者のがん体験の意味づけに関する対象文献の概要

年次別論文数は，1992～2022 年の 20 件であった。対象者のがん体験やその意味づけは，がんに罹患し化学療法などの治療とその生活に関するものであった（表 1）。

表 1. 成人・老年期がん患者のがん体験の意味づけに関する対象文献の概要

文献番号	著者名 (発行年)	論文名	雑誌名	国・地域	がん体験等
1	関谷ら (2022)	術後肺がん患者が内服化学療法を受けながら生活していくことへの意味づけ	新潟県立看護大学紀要	日本	化学療法中の生活
2	Hall, et al. (2020)	The varieties of redemptive experiences: A qualitative study of meaning-making in evangelical Christian cancer patients	Psychology of Religion and Spirituality	アメリカ	診断
3	Ahmadi, et al. (2019)	Religion, culture and meaning-making coping: A study among cancer patients in Malaysia	Journal of Religion and Health	マレーシア	がん罹患による宗教的な対処方法
4	浅野ら (2019)	上部消化管がん患者の術後補助療法についての意味づけ	高知女子大学看護学会誌	日本	術後補助療法
5	Leal, et al. (2018)	Interconnection: A qualitative analysis of adjusting to living with renal cell carcinoma	Palliative & Supportive Care	アメリカ	がんとともに生きることに適応する体験
6	Pintado (2018)	Breast cancer patients' search for meaning	Health Care for Women International	スペイン	がん罹患
7	Ahmadi, et al. (2017)	Meaning-making coping among cancer patients in Sweden and South Korea: A comparative perspective	Journal of Religion and Health	スウェーデン・韓国	意味づける対処
8	末貞ら (2017)	セルフヘルプ・グループ (SHG) に参加するがん患者の体験	高知女子大学看護学会誌	日本	SHG 参加
9	Ahmadi, et al. (2016)	Exploring existential coping resources: The perspective of Koreans with cancer	Journal of Religion and Health	韓国	意味づける対処
10	Liamputtong, et al. (2016)	Living with breast cancer: the experiences and meaning-making among women in Southern Thailand	European Journal of Cancer Care	タイ南部	乳がん罹患
11	川端 (2015)	がんの集学的治療を断念した患者を支える希望の意味	日本がん看護学会誌	日本	患者を支える希望
12	竹山ら (2015)	進行がん患者の病いの体験の意味づけに関する研究	日本看護福祉学会誌	日本	化学療法中
13	田中ら (2015)	外来で化学療法を受ける進行がん患者のアドヒアランス行動とその意味づけ	高知女子大学看護学会誌	日本	外来化学療法を受ける
14	竹山ら (2013)	化学療法を継続して受けている肺がん患者の病いの体験の意味づけを促す援助	広島国際大学看護学ジャーナル	日本	化学療法中
15	Ching, et al. (2012)	Meaning making: Psychological adjustment to breast cancer by Chinese women	Qualitative Health Research	中国	治療中・後
16	La Cour, et al. (2009)	Activity and meaning making in the everyday lives of people with advanced cancer	Palliative & Supportive Care	デンマーク	活動を通して
17	Ando, et al. (2008)	A pilot study of transformation, attributed meanings to the illness, and spiritual well-being for terminally ill cancer patients	Palliative & Supportive Care	日本	がん罹患
18	矢ヶ崎ら (2007)	外来で治療を続ける再発乳がん患者が安定した自分へ統合していく体験	日本がん看護学会誌	日本	外来治療継続中
19	雲ら (2002)	肝臓がん患者の苦難の体験とその意味づけに関する研究	川崎医療福祉学会誌	日本	苦難な体験
20	Steeves (1992)	Patients who have undergone bone marrow transplantation: their quest for meaning	Oncology Nursing Forum	アメリカ西部	骨髄移植

## 2. 成人・老年期がん患者のがん体験の意味づけの影響要因

成人・老年期がん患者のがん体験の意味づけの影響要因は、【現状認識・受けとめ】【身体・心理状態】【周囲の存在・関係性・支援】【がん罹患してからの生活】【内なる探求】【超越的な力・宗教】の6つのカテゴリと19のサブカテ

ゴリが抽出された (表 2)。

以下、カテゴリを【】、サブカテゴリを《》として分析結果を述べる。

### 1) 現状認識・受けとめ

【現状認識・受けとめ】とは、病気や治療に関する《情報を得る》ことから《がん罹患した理由を理解する》、病期や治療の必要性など

《がんや治療という現実を受け入れる》ことである。

#### 2) 身体・心理状態

【身体・心理状態】とは、《身体的・心理的苦痛がある》、不安や苛立ちなど《複雑な思いを抱えている》が、独りの時間など《リラクゼーション・休息できる空間がある》ことである。

#### 3) 周囲の存在・関係性・支援

【周囲の存在・関係性・支援】とは、対象者によっては職場の人や教会の聖職者・教会員なども含めた《家族や友人、医療者などの存在・関係・支援がある》や、《同病者との出会い・交流する》ことにより同病者間で体験を聴き共有し励まし合うことである。

#### 4) がんに罹患してからの生活

【がんに罹患してからの生活】とは、《治療に期待・治癒への希望を持つ》、補完代替療法を含め《がんに効果があると信じる治療を継続するための取り組みをする》、《自らの役割を認識し目標を持つ》とともに《罹患以前の普通の生活をする》、《がんと付き合っていく方法を模索し、自分なりの生活をする》ことである。

#### 5) 内なる探求

【内なる探求】とは、がん罹患後の経験を含めて他者に語ることや、日記を書くことなどを通して《自分の生きてきた過程を振り返る》、スピリチュアリティ、アイデンティティを含め《自己洞察・探求する》、《自分の価値観・信念を貫く》ことである。

#### 6) 超越的な力・宗教

【超越的な力・宗教】とは、運命・宿命や祈りなど《宗教的な考え・行為をする》ことや、信仰やスピリチュアルな体験など《超越的な力の認識、神に支えられている体験、神との関係を深める》、《自然の癒しの力を信じる》ことである。

## IV. 考察

### 1. 成人・老年期がん患者のがん体験の意味づけの影響要因

がん体験の意味づけの影響要因のうち、《身体的・心理的苦痛がある》、《複雑な思いを抱えている》は、意味づける際の阻害要因であった。肯定的に意味づけるためには、コントロール可能なレベルまで苦痛を軽減する必要性が示唆されている (Ching, et al., 2012)。また《がんや治療という現実を受け入れる》前提として、医療者からの情報提供により現状を適切に理解することが不可欠である。規則正しい生活や体力づくりなど《がんに効果があると信じる治療を継続するための取り組みをする》など、これまでの生活と治療が両立できるように患者自身が心身をマネジメントし、コントロール感が得られることで、治療を前向きに取り組む力になると考える。

ほとんどの文献から得られた意味づけの促進要因である《家族や友人、医療者などの存在・関係・支援がある》は、多くの文献で患者にとって最も重要であると語られていたが、家族など重要他者は、直接、支援をしていなくとも「存在」していることが患者にとって支えとなっていた。また、《リラクゼーション・休息できる空間がある》には、静けさとリラクゼーションの体験などで孤独を楽しむ (Ahmadi, et al., 2017) や、ガーデニングなど自分にとって休息できる空間があった (La Cour, et al., 2009)。がん患者にとって、重要他者と過ごすことと共に、独りで過ごすことは、他者への気遣いのない、自分と向き合える貴重な時間や空間として大切にしていることが考えられる。

研究方法として実施している臨床心理士や看護師との面接は、がん患者が《自分の生きてきた過程を振り返る》など【内なる探求】をする中で苦難ながん体験にも意味を見出すことに繋

表 2. 成人・老年期がん患者のがん体験の意味づけの影響要因

カテゴリ	サブカテゴリ	文献番号
現状認識・受けとめ	情報を得る	15
	がんに罹患した理由を理解する	6, 10
	がんや治療という現実を受け入れる	1, 4, 5, 12, 18, 19
身体・心理状態	身体的・心理的苦痛がある	6, 17
	複雑な思いを抱えている	1
	リラクゼーション・休息できる空間がある	7, 16
周囲の存在・関係性・支援	家族や友人, 医療者などの存在・関係・支援がある	1~5, 7, 9~13, 15~20
	同病者と出会い・交流する	8, 17
がんに罹患してからの生活	治療に期待・治癒への希望を持つ	1, 4, 19
	がんに効果があると信じる治療を継続するための取り組みをする	4, 7, 9, 13, 14
	がんと付き合っていく方法を模索し, 自分なりの生活をする	1, 12
	自らの役割を認識し目標を持つ	19
内なる探求	罹患以前の普通の生活をする	1, 13, 16
	自分の生きてきた過程を振り返る	4, 5, 8, 12, 14, 15, 17, 19
	自分の価値観・信念を貫く	7, 9, 11, 15, 19
超越的な力・宗教	自己洞察・探求する	5, 7, 19
	宗教的な考え・行為をする	2, 3, 6, 7, 9, 10, 17, 20
	超越的な力の認識, 神に支えられている体験, 神との関係を深める	2, 17
	自然の癒しの力を信じる	7, 9

がっていた。ナラティブは、語り手当事者の経験や意味づける行為を扱い、人生と同じように、過去を再構成すると共に未来を生成的につむぎだすオープン・エンドの生の営みである（やまだ, 2008, p. 8, 11）。状況を理解している他者に物語ることががん体験の意味づけ、今後の生き方を考える機会になることが考えられる。

海外の多くの文献で「宗教的な考え・行為をする」ことががん体験の意味づけに影響していたが、日本人を対象とした文献では、Ando, et al. (2008) の 1 文献のみであった。また「祈り」をスウェーデン人はリラクゼーションなどの手段と考え、韓国人は宗教の有無に関係なく、生きるために神など超越した力に嘆願するなどしていた (Ahmadi, et al., 2017)。医学の発達は「どのように」病気になるかをより詳細により明確にしてくれるであろうが、それは「なぜ」という疑問には答えてくれず、産業化された社

会は「なぜ」に応える文化的要素（たとえば信仰）を失いつつあるのだとも言える (波平, 2022, p. 58)。対象者によっては、神や自然など超越した力や宗教行為がストレスを軽減させ、がんの対処方法に共通することはあっても文化特有な考え方が影響することが考えられる。日本人など仏教を信仰していても、神道や民族宗教、あるいは他の宗教教義からの明示的、暗黙裡の影響の中でその死生観を醸成していることが考えられる (川島, 2011, p. 56)。がん罹患、特に進行がんや終末期など人生を揺るがす出来事の捉え方は、価値観や人生観・死生観を含め、その人のこれまでの生き方が影響すると考える。

上記のことから、がん患者ががん体験の意味づけられるように支援する際には、身体・心理状態や、家族など周囲の人々の存在など社会的、価値観や超越的な力といったスピリチュアルなどトータルペインの視点や、患者の化的背景文

なども理解する必要性が明らかとなった。

## 2. 成人・老年期がん患者ががん体験を意味づける支援

成人・老年期がん患者のがん体験の意味づけに影響する要因からフォーマル、インフォーマルな視点で支援の可能性について考察する。

### 1) フォーマルな支援

がん患者は、病気や治療などについて【現状認識・受けとめ】《がんの効果があると信じる治療を継続するための取り組みをする》ことが意味づけに影響していた。そのため、病気や治療を適切に現状認識できるよう医療者から対象者に合わせた情報提供や、身体的苦痛を緩和することが重要である。またセルフモニタリングや有害事象の対処など薬物療法時のパターンを習得できるようにサポートすることや、同病者との交流には患者会の紹介などが考えられる。患者の心身が安定することで、その時々の状態・状況に合わせた実現可能な目標を持つことに繋がると考える。また、がんの対処方法に共通することはあっても患者個々の文化特有の考えから行動していたように、がん患者の支援者は、患者の病気に関する認識を確認するとともに、患者の文化特有の価値観や信念、宗教、親族関係など社会背景を十分理解しておく必要がある。

### 2) インフォーマルな支援

がん患者が《自分の生きてきた過程を振り返る》《自己洞察・探求する》方法として、日記などで状況や思いを綴ってみることや、患者会など意図的ながん患者の語る場を提供することなどが考えられる。患者会や患者支援団体では、情報提供や専門家による相談、講演などがされており、がんピアサポートでは心理的支援、ヨガなど体験型プログラムの他、外出しなくても参加できるバーチャルリアリティなどを用いる試みもされている(安藤ら, 2021)。また《自然

の癒しの力を信じる》については、家族・友人、患者会や地域活動などで四季折々の行事や自然と触れ合う機会をつくることも一つの支援になると考える。

## VI. 結論

成人・老年期がん患者のがん体験の意味づけの影響要因には、【現状認識・受けとめ】【身体・心理状態】【周囲の存在・関係性・支援】【がん罹患してからの生活】【内なる探求】【超越的な力・宗教】があった。がん体験を意味づける阻害要因である身体的苦痛の緩和や適切に現状を認識できるよう情報提供するとともに、文化特有な社会的背景なども含めて患者を理解したうえで支援することの重要性が示唆された。

## VII. 本研究の限界と課題

成人・老年期がん患者のがん体験の意味づけの影響要因について文献レビューを行った。がん種や病期、治療、文化的背景など多様な対象者がいる中で、本研究は限られた国や地域の文献であり、がん体験の意味づけの影響要因が限定されていることが考えられる。また、看護支援として実践に繋げるためには、がん患者や家族に水準の高い支援をしている医療者の支援内容も明らかにする必要がある。

本研究における利益相反は存在しない。

## 文献

- Ahmadi, F., Mohamed, H. N. A., & Mohammad, M. T. (2019). Religion, culture and meaning-making coping: A study among cancer patients in Malaysia. *Journal of Religion and Health*, 58(6), 1909-1924. doi:10.1007/s10943-018-0636-9
- Ahmadi, F., Park, J., Kim, K. M., Kim, K. M.

- & Ahmadi, N. (2017). Meaning-making coping among cancer patients in Sweden and South Korea: A comparative perspective. *Journal of Religion and Health*, 56(5), 1794-1811. doi:10.1007/s10943-017-0383-3
- Ahmadi, F., Park, J., Kim, K. M., Kim, K. M., & Ahmadi, N. (2016). Exploring existential coping resources: The perspective of Koreans with cancer. *Journal of Religion and Health*, 55(6), 2053-2068. doi:10.1007/s10943-016-0219-6
- 安藤雅恵, 坂村美奈, 青木崇行, 住谷昌彦 (2021). バーチャルリアリティを用いたがん患者のピアサポート, 新薬と臨牀, 70 (3), 45-49.
- Ando, M., Morita, T., Lee, V., & Okamoto, T. (2008). A pilot study of transformation, attributed meanings to the illness, and spiritual well-being for terminally ill cancer patients. *Palliative & Supportive Care*, 6(4), 335-340. doi:10.1017/S1478951508000539
- 浅野真由, 藤田佐和, 森本悦子 (2019). 上部消化管がん患者の術後補助療法についての意味づけ, 高知女子大学看護学会誌, 44 (2), 95-104.
- Bluck, S., Mroz, E. L., Wilkie, D. J., Emanuel, L., Handzo, G., Fitchett, G., ... Bylund, C. L. (2022). Quality of life for older cancer patients: Relation of psychospiritual distress to meaning-making during dignity therapy. *American Journal of Hospice & Palliative Medicine*, 39(1), 54-61. doi:10.1177/10499091211011712
- Ching, S. S. Y., Martinson, I. M., & Wong, T. K. S. (2012). Meaning making: Psychological adjustment to breast cancer by Chinese women. *Qualitative Health Research*, 22(2), 250-262. doi:10.1177/1049732311421679
- Hall, M. E. L., Shannonhouse, L., Aten, J., McMartin, J., & Silverman, E. (2020). The varieties of redemptive experiences: A qualitative study of meaning-making in evangelical Christian cancer patients. *Psychology of Religion and Spirituality*, 12(1), 13-25. doi:10.1037/rel0000210
- 川端愛 (2015). がんの集学的治療を断念した患者を支える希望の意味, 日本がん看護学会誌, 29 (2), 62-70.
- 川島大輔 (2011). 生涯発達における死の意味づけと宗教 ナラティブ死生学に向けて, ナカニシヤ出版, 京都.
- 熊倉深里, 石川ふみよ (2020). 「意味づけ」の概念分析—がん患者への適用可能性—, 上智大学総合人間科学部看護学科紀要, 5, 25-31.
- 雲かおり, 太湯好子 (2002). 肝臓がん患者の苦難の体験とその意味づけに関する研究, 川崎医療福祉学会誌, 12 (1), 91-101.
- La Cour, K., Johannessen, H., & Josephsson, S. (2009). Activity and meaning making in the everyday lives of people with advanced cancer. *Palliative & Supportive Care*, 7(4), 469-479. doi:10.1017/S1478951509990472
- Leal, I., Milbury, K., Engebretson, J., Matin, S., Jonasch, E., Tannir, N., ... Cohen, L. (2018). Interconnection: A qualitative analysis of adjusting to living with renal cell carcinoma. *Palliative & Supportive Care*, 16(2), 146-154. doi:10.1017/S1478951517000074
- Lee, V. (2008). The existential plight of cancer: meaning making as a concrete approach to the intangible search for meaning. *Support Care in Cancer*, 16(7), 779-785. doi:10.1007/s00520-007-0396-7



- Lee, V., Cohen, S. R., Edgar, L., Laizner, A. M., & Gagnon, A. J. (2006). Meaning-making and psychological adjustment to cancer: Development of an intervention and pilot results. *Oncology Nursing Forum*, *33*(2), 291-302. doi:10.1188/06.onf.291-302
- Liamputtong, P., & Suwankhong, D. (2016). Living with breast cancer: the experiences and meaning-making among women in Southern Thailand. *European Journal of Cancer Care*, *25*(3), 371-380. doi:10.1111/ecc.12321
- 波平恵美子 (2022). 病気と治療の文化人類学, 筑摩書房, 東京.
- Park, C. L. (2010). Making sense of the meaning literature: An integrative review of meaning making and its effects on adjustment to stressful life events. *Psychological Bulletin*, *136*(2), 257-301. doi:10.1037/a0018301
- Park, C. L., Edmondson, D., Fenster, J. R., & Blank, T. O. (2008). Meaning making and psychological adjustment following cancer: The mediating roles of growth, life meaning, and restored just-world beliefs. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, *76*, 863-875. doi:10.1037/a0013348
- Pintado S. (2018). Breast cancer patients' search for meaning. *Health Care for Women International*, *39*(7), 771-783. doi:10.1080/07399332.2018.1465427
- Rosenberg, A. R., Yi-Frazier, J. P., Wharton, C., Gordon, K., & Jones, B. (2014). Contributors and inhibitors of resilience among adolescent and young adults with cancer. *Journal of Adolescent and Young Adult Oncology*, *3*(4), 185-193. doi:10.1089/jayao.2014.0033
- 関谷めぐみ, 酒井禎子, 石田和子 (2022). 術後肺がん患者が内服化学療法を受けながら生活していくことへの意味づけ, 新潟県立看護大学紀要, 11, 8-18.
- Steeves, R. H. (1992). Patients who have undergone bone marrow transplantation: their quest for meaning. *Oncology Nursing Forum*, *19*(6), 899-905.
- 末貞晶子, 友永咲季, 西山支帆子, 成田花奈, 石神友佳, 大西ゆかり, 他 (2017). セルフヘルプ・グループに参加するがん患者の体験, 高知女子大学看護学会誌, 43 (1), 169-178.
- 竹山広美, 岡光京子 (2015). 進行肺がん患者の病いの体験の意味づけに関する研究, 日本看護福祉学会誌, 20 (2), 85-95.
- 竹山広美, 岡光京子 (2013). 化学療法を継続して受けている肺がん患者の病いの体験の意味づけを促す援助, 広島国際大学看護学ジャーナル, 11 (1), 27-34.
- 田村恵子, 小島操子 (1997). 末期がん患者の人生や生存の意味づけへの援助の開発—ライフレビュー・インタビューを取り入れて—, 日本看護科学学会誌, 17 (3), 242-243.
- 田中まゆこ, 藤田佐和 (2015). 外来で化学療法を受ける進行がん患者のアドヒアランス行動とその意味づけ, 高知女子大学看護学会誌, 40 (2), 42-52.
- やまだようこ (2008). 序章 人生と病いの語り, やまだようこ (編), 質的心理学講座 2 人生と病いの語り, 1-12, 東京大学出版会, 東京.
- 矢ヶ崎香, 小松浩子 (2007). 外来で治療を続ける再発乳がん患者が安定した自分へ統合していく体験, 日本がん看護学会誌, 21 (1), 57-65.